



平成30年3月1日(木)



つつじが丘小学校  
学校だより

つつじ

昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市



## 感謝を行動で伝える

校長 上田 祥市

ようやく日差しに春の暖かさを感じるようになりました。桜が満開の春に始まり、つぼみが膨らむ春で終わる。学校の一年間の学びがもうすぐ修了となります。

平昌オリンピックでは、テレビ画面に映るアスリートたちのチャレンジに、たくさんの感動と勇気をもらいました。試合を勝ち抜き、メダリストになった選手たちの晴れやかな顔に、自分を信じやり抜いた充実感が溢れていました。きっとメダルを取れなかった選手にも、一人一人の努力とドラマがあり、悔しさが次のチャレンジへとつながっていくのでしょうか。

史上最多のメダルを取ったことは、大変嬉しいのですが、私にはそれよりも心に強く残ったシーンがありました。それは、小平選手が五輪新記録を出した500m滑走後の行動です。彼女は新記録に沸く会場に向かって、口に人差し指を立てて「静かに」を伝えたのです。自分の後に次のレースがあり、レースに集中できる環境を早く整えたかったという気持ちからの行動でした。しかもそれは最終レースであり、3連覇がかかった韓国のイ・サンファ選手のレースでもあったのです。結果として小平選手が金メダル、サンファ選手は銀メダルになったのですが、その小平選手の相手への気遣いこそ、スポーツマンシップであると私は思います。その後のインタビューでお互い

が辛い時も支え合ってきた存在として、感謝の言葉を伝えている姿にも感動しました。小平選手だけではありません。負けても勝っても試合が終わったらまず最初に相手チームの選手に握手を求めるカーリングの選手たち。メダルを取った後のスキージャンプ選手の写真撮影で、自分を中心に撮る位置取りを断り、チームの心を優先した高梨選手。インタビューで必ず自分をサポートしてくれた方々への感謝の言葉を口にする選手たち。「支えられて生きていることへの感謝」を忘れない選手一人一人の行動に、人としての生き方を学ぶことができます。



学校の3月は、一年を振り返り周りの人たちに感謝を伝える月です。自分の一年間の成長を確かめる中で、それを支えてくれた人の存在に気づき、感謝を伝えます。その一つに、6年生を送る会があります。3月3日の当日に向けて、今それぞれの学年で、6年生へのメッセージを込めた出し物の練習をしています。そこには、頼れる存在であり、憧れでもあった6年生への素直な感謝の気持ちが溢れています。そして、もうすぐ卒業していく6年生も、下学年の後輩たちに感謝と託す思いを伝えます。

人を思いやり、いつも謙虚に感謝の心を忘れずに行動することを教えていくことが、他人の気持ちを考えて行動する、自立した大人になるために大切なことだと思います。